

やまぐに

# 堂様逸話集

山国公民館

山国町伝統文化教室

発刊にあたって

私達は、「伝承サークル」の名称を「伝統文化教室」と改め、公民館活動の一環として、これまで先人達が長い年月をかけて守り、築き上げてきた町内の堂様の由来・逸話について調べて参りました。

私達の先祖は、平和と無病息災を願い、堂様を生活のよりどころ、心の支えとして生活していたと思われます。今も人々によって花が手向けられ、盆踊りをして供養が続けられている所もありますが、少子高齢化の為、これらの古き良き習慣がやむなく消えてしまった所もあるようです。

今回、七十字近くあった堂様の中で、逸話として残っています三十五字を調査し、ようやく小冊子「やまくに堂様逸話集」として発刊することになりました。

私達先祖の生き方の一端をご理解して頂ければ幸に存じます。

最後になりましたが、発刊に至るまでご指導・ご支援下さいました、山国教育センター長・渋谷禎昭氏、前山国公民館長・水谷治義氏、現山国公民館長・小原井重次氏を始め、調査にご協力下さった方々、会員の皆様に心から感謝を申し上げ、発刊にあたってのご挨拶と致します。

平成二十二年三月

山国町伝統文化教室

委員長 森山アヤ子

### 早見表

1 薬師堂〔中摩・神谷〕	16 観音堂〔藤野木〕	31 お堂様〔槻木・高内〕
2 諏訪文殊堂〔中磨・庄屋村〕	17 地藏堂〔藤野木・草野河内〕	32 観音堂〔槻木・小原井〕
3 馬場先観音〔中摩・白地〕	18 観音堂〔長尾野〕	33 観音堂〔槻木・中畑〕
4 地藏堂〔中磨・白地〕	19 彦山社〔守実・上組〕	34 観音堂〔槻木・桑原〕
5 善念寺観音堂〔中磨・犬王丸〕	20 観音堂〔守実・中組〕	35 弘法地藏堂〔槻木・泉〕
6 薬師堂〔中摩・中詰〕	21 堂 様〔守実・志川〕	
7 弘法地藏堂〔中磨・春田〕	22 弘法堂〔守実・狩宿〕	
8 観音堂〔中摩・寺川〕	23 観音堂〔平小野・田ノ中〕	
9 笹掛宝珠地藏尊〔中摩・カヤの原〕	24 明林堂〔平小野・小竹林〕	
10 菊水山観世音閣〔中摩・上神田〕	25 薬師堂〔吉野・吉野辻〕	
11 嶽薬師堂〔宇曾・市平〕	26 お堂様〔小屋川・谷組〕	
12 石原不動尊〔宇曾・市平〕	27 お堂様〔小屋川・上組〕	
13 小迫薬師堂〔宇曾・市平下〕	28 不動尊〔小屋川・所小野〕	
14 火伏地藏〔宇曾・上村〕	29 観音堂〔草本・田良川〕	
15 地藏堂〔藤野木・成政〕	30 疣取り地藏〔草本・大曲〕	



1

呼称	薬師堂
場所	中津市山国町中摩神谷入り口
本尊	薬師如来立像
脇本尊	弘法大師
建立年月	天保元年（一八三〇）の頃から 在ったと思われる。 平成十一年再建
現在の状況	毎年八月二十一日供養祭りが 行われている。

その他

## 逸話

国道二二二号線沿い耶馬溪町と山国町の境界の一ツ戸トンネル付近に在り、山国川の深淵のため一ツ戸で中津方面からの往還は途絶え、やむなく川を渡り対岸の道を利用して山国町庄屋村方面に渡っていた。

川は深淵があり、籠に石を詰めて脚にして四m置きぐらゐに配置し、その上に桟橋材を投げ渡し簡単な橋を掛けていた。

徒歩の人はこれでも良かったが、重い荷物を運ぶ人・牛馬を利用して荷物を運ぶ人にとっては一番の難所であり、出水期には山国川の増水で足止めをされる事もたびたびで、きわめて不便であり毎年多数の死傷者が出ていたそうだ。

そこで、地区の人々が災害が起きないようにと願ひそして事故者の供養のために建立した、当時は国道の下の畑に立てていた。



2

呼称	諏訪文殊堂
場所	中津市山国町中摩庄屋村
本尊	木造不動明王立像
脇本尊	木造毘沙門天立像・十二将神木像 薬師如来坐像・釈迦三尊
建立年月	
現在の状況	
その他	

## 逸話

この文殊堂の地は昔、英彦山領の境として英彦山の四方十里の地に大行司神社があり、英彦山領の南辺の境界地でその名残の字大行司と言つ地名が今もある。

その境内入り口に鳥居があつて、この付近の里道を鳥居越えという。この地にある国東塔は大行司神社代々の守護職の墓だと言い伝えられている。

その後、時代は不明だが、この地に釈迦三尊を祀る堂があり、その脇仏の文殊菩薩にちなみ、この堂を文殊堂と呼び信仰していた。

大正三年十一月堂宇を改築し、地区の南地にあつた鎌倉時代の作と言われている不動明王、毘沙門天と薬師如来をも合祀した。

戦前は、春の彼岸に文殊祭りをしていたが、今は八月十五日堂の内外を清掃し夜に庄屋村総出で祭りを行っている。

不動明王立像と毘沙門天像二体は、昭和五十四年二月十七日山国町有形文化財に指定されている。

戦時中は、出征兵士の武運長久の祈願に近隣は勿論遠方からも参詣者があつたと言われる。



3

呼 称	馬場先観音
場 所	中津市山国町中摩白地
本 尊	観音様
脇本尊	
建立年月	昭和三十七年再建
現在の状況	
その他	

## 逸話

中摩白地の馬場先地区に昔寺があったと伝えられている。

現在、そこには即身成仏をした僧のものと伝えられる墓石、そのほかにも各種石造塔類の残欠が多く見られる。

塔類の形式からみて、桃山時代を下限として室町期に存在した寺だと思われる。

即身成仏とは、生身のまま仏として悟りの境地にはいるということである。

深い穴を掘りその中に生き埋めになる方法をとったということなのです。

即身成仏を志す修行は、真言宗独特のものだそうです。この寺は真言宗の寺であったのでしょう。



4

呼称	地藏堂
場所	中津市山国町中摩白地
本尊	地藏菩薩坐像 石像
脇本尊	外御三体
	地藏堂の横にあるのがアラブ寺名残品六地藏石幢である。
建立年月	昭和三十七年改築
現在の状況	二月四日、八月四日、 供養祭りが行われている。
その他	

## 逸話

宝篋印塔は、その隅飾りの形などから、成立年代を判定すると、桃山期ごろのものと思われる。

「お上人様」と呼ばれる墓塔があります、あまり高くないが重厚な造りの立派な笠を乗せている。

これは、この地に昔存在した寺の住職で地域の住民の難儀や貧困を救わんと生きながら墓穴に入り「即身成仏」を遂げた人の墓だと伝えられています。



5

呼 称	善念寺観音堂
場 所	中津市山国町中摩三四二二
本 尊	観音像（檜木像一寸八分）
脇本尊	
建立年月	室町時代
現在の状況	
その他	

## 逸話

山崎家が室町時代禅宗のお寺であった頃の名残で、観音堂の下に往時の墓がある。

中に明應（一四九〇年代）の文字、禅師と刻まれた墓や板碑も見られる。



6

呼称	薬師堂
場所	中津市山国町中摩中詰
本尊	薬師如来
脇本尊	弘法大師
建立年月	再建 平成十二年
現在の状況	毎年八月に供養祭りが行われている。
その他	

## 逸話

お堂は三度目の移転で、現在地に建てられている。

弘法大師像は、裏山の祠に祀ってあったが、この堂に薬師如来と一緒に祀っている。「移転不明」  
薬師如来は、火伏様として地域の人は参拝している。また、歯痛を治すことでも有名で、近隣からも参拝があった。

歯の痛みが直ると、お礼に爪楊枝を歳の数だけ作って奉納していた。



呼称 弘法地藏堂  
場所 中津市山国町中摩春田陰平

本尊 弘法大師像

脇本尊 地藏菩薩像

建立年月 天明（一、七八一）の頃より木造の

堂祠二体の弘法地藏菩薩像が祀られていたが、水害後享和元年（一、八〇一年）に現在の所に安置された。

現在の状況

水害後裏手の山の中腹に石造りの堂祠に二体別々に祠られている。当堂は水田を二アール持つておりその小作料で九軒の関係者は一月二十一日に供養祭りが行われている。

その他

逸話

寛政（一、七九〇）年ごろ、玖珠町と山国町の境の岩山が崩れ、春田川をせき止めて湖となり、その水と土砂が一気に流れ、大塚堤防を乗り越えて春田の人家田畑を流した。

その時、人が二人流されて助けを求めていたとき、倒れるはずのない弘法堂祠の敷地にあった、周囲十二メートル、高さ五〇メートルある楠の大木が倒れ二人は助かりました。

村人が何気なく弘法堂の菩薩様を見たら、雨漏りのしていないのに菩薩様はびっしょりと濡れていた、楠は弘法様が倒したと伝えられ、その木は昭和二十年頃まであったと思われる。

その水害の痕跡は、平成の春田水田改良事業の時土石によって証明された。

大木が倒れた後、木造堂祠が傾き、享和元年、信徒九名によって石工に頼み、石堂祠が再建されて今の位置に祀っております。



8

呼 称	観音堂
場 所	中津市山国町中摩春田寺川
本 尊	十一面観音
脇本尊	
建立年月	藤原末期から鎌倉期にかけてではないかといわれている。 天正九年（一五八一）
現在の状況	八月十日・八月十七日に盆踊りが行われている。

その他

## 逸話

観音堂に祀られている菩薩像には天冠は失われ、右半分は焼けているが残る半面の表情は、息を呑むほど美しく作られている。

顔半面が焼けて居る事については、地域に伝わる話によると、天正九年大友宗麟が英彦山を攻めた折にこの地域の神社も一部破壊され焼かれた。

信仰厚い春田地区の人々は、大切な観音菩薩様に、もしものがあればと思い、仏像を背負い非難したが、その後の火災で焼失するところを頭部だけとりとめたと伝えられている。

この観音菩薩像が完全な形であったならば、高さ一メートルはあったらうと推測される。

今現在でも火傷にご利益があるとのこと、遠方よりもお参りに来ている。

天冠とは、観音菩薩が頭部につける冠の事を言っ



9

呼称	笹掛宝珠地藏尊
場所	中津市山国町中摩カヤの原
本尊	宝珠観音地藏尊
脇本尊	
建立年月	宝永六年丑年（一、七〇九年）
現在の状況	毎年八月十四日夕方より地元住民及び近郷の来訪者で供養を行い、カラオケ、盆踊りで親睦を深めている。
その他	昭和二十八年の大水害で梨の大木につぶされたが、笹川・掛地の人々の肝いりで平成二年八月に再建された。

## 逸話

昔、春田川の流域の部落に腹痛の伝染病が起こった、これを聞いた托鉢のお坊さんが「このお地藏さんを納めて丁重にお参りしてください」と地藏さんを置いて行かれた。

部落民は坊さんの言う通りお参りしたら伝染病が治まったと言われている、その後、病癒しの地藏として近郷の人々がお参りに来ている。

また、再建された地藏堂より三〇〇M上流にオタヤ淵という淵があり、宝永の頃は岩山険しく、道巾狭く人馬が淵に落ちる事故が多発していたが、そこに十尺四方の堂を建て地藏を安置し事故も起こらなくなったと言われている、この時期が宝永六年とのこと。



10

呼称	菊水山観世音閣
場所	中津市山国町中摩肥前屋上神田
本尊	観世音菩薩
脇本尊	
建立年月	不明、再建は昭和二十一年ごろ
現在の状況	毎年八月十日、供養祭りが行われている。
その他	現在、水谷良之氏管理

## 逸話

観世音菩薩像は見事な金箔像なので、昭和二十年頃のある日仏像が盗まれました。盗んだ泥棒は門司港まで行き船に乗ろうとしました。ところが仏像が急に重くなり、動かせなくなった泥棒はそのまま置いて逃げました。

それをみた土地の人が警察に届けました。

盗難の後、届を出していたので水谷家に警察より連絡があり、主の水谷順行さんが引き取りに行き現在の所に安置したといわれています。



11

呼称	嶽薬師堂
場所	中津市山国町宇曾市平嶽
本尊	薬師如来
脇本尊	
建立年月	建長二年（一、二五〇年）
現在の状況	昭和四〇年頃までは八月十七日に盆踊りをしていたが、最近は掃除だけとなっている。
その他	

## 逸話

当地区は、その昔、平小野地区より山道に入り津民を経て宇ノ島に通じ抜ける道で、とても人通りが多い場所でした。

この薬師堂は歯の痛みを取る事で有名でした。川の合流点で丸い石を拾いそれを供えお願いと、たちどころに歯の痛みが治るといふ事でお参りが後を絶たなかった。

医学が進み鉄道の開通とともに人通りもめっきり少なくなり今では寂しいばかりです。

大友宗麟と英彦山との合戦がこの地であり（一五七〇年ごろ）、その時の戦死者と思われる墓石が十数基境内の一角にたたずんでいる。



12

呼称	石原不動尊
場所	中津市山国町宇曾字市平
本尊	不動尊
脇本尊	観音像・弘法大師
建立年月	嘉禎元年（一、二三五年）
現在の状況	八月十日、地域皆でお通夜が行われている。
その他	

### 不動尊由来略記

- 一、今ヲ去ル凡ソ七百年前鎌倉ヨリ御外宮ノ時白地亀岡八幡宮ノ御共ヲナシ當地ニ御余セラレシニ依リ
  - 一、四面御堂ヲ建立シテ御安置奉ル夫レヨリ毎年十二月二十八日ヲ御祭日トスル
  - 一、明治十九年四月御堂ヲ一間半四面ニ建替ヲナス
  - 一、明治二十年七月早川源平氏寄願観音様ヲ御安置ス
  - 一、境内ニ椎ノ木アリ数百年ヲ経タル周リニ丈余ノ大樹タリシモ中央ニホラ穴アリ大正拾参年九月暴風雨ノ為メ吹き折ラル其時堂様共ニ打倒サレタリ依テ翌年再建ニ決ス
  - 一、大正拾四年拾月竣工ス全工費四百円余人夫九戸ヨリ二百二人 材料九戸ヨリ寄附人名宝珠山萬吉
  - 一、谷口儀徳、早川源吾、銚立謙二郎、小松幸三、石原良三郎 石原芳蔵 藤原庄三郎 原 幸一
  - 一、昭和三年十二月、石原八作寄願高野山参詣シテ弘法様ノ石佛ヲ安置ス
- 昭和拾参年三月記ス（昭和十三年に記された木板が保存されている）原文のまま記載



呼称	小迫薬師堂
場所	中津市山国町宇曾字市平下
本尊	薬師如来
脇本尊	
建立年月	再建 仏像 天保七年（一八三七）二月 堂様 昭和三十四年、平成九年
現在の状況	いつも花が飾られ、お参りが 行われている。
その他	

## 逸話

天保の時代日本各地で疫病が発生した、当地区も例外でもなく何人も命が奪われた。当時は、医学とは無縁の時代。ただ信仰にたよるしかない頃であった。

そこで、薬師堂が建立され（天保七年二月と記されている）、お祭りを正月八日と定めて各戸持ち回りで行っていたが、明治時代に一軒の家が、祭り元が回ってくると何かの理由をつけて行わないようになった。祭りは残りの家で毎年行われた。ところが、自分は除け者にされたと思い込み、「祭り元が出来ないのも病気になったのも薬師様のせい」と思うようになり、「あんな物がなければこんな事にはならなかった」と仏像を投げ飛ばし粉々にしてしまった。

地区のものは皆で拾い集めたが、どうしても頭の部分が見つからず数年十過ぎてしまった。

頭のない仏像を祀っているのではあまりにも・・・という事になり、協議の結果昭和三十四年仏像が再建された」と記されている。平成九年にはお室が再建されている。



14

呼称	火伏地蔵
場所	中津市山国町宇曾上村
本尊	
脇本尊	火伏地蔵
建立年月	
現在の状況	毎年九月二十四日、座元が順番で掃除・お供え物をし、食事をして供養が行われている。
その他	

## 逸話

鎖等を使い険しい道で、民家の裏山にある岩穴の中に高さ二・七メートル・巾四メートルのところに祀ってある。

昭和十三年火事があり民家が焼け、その後山火事も起こった。この地蔵がそまつになっているのでは・・・という事になりそれ以来地区の人がお祭りをするようになった。その後七十年近く地区では火災が発生していない。



呼称	地蔵堂
場所	中津市山国町藤野木
本尊	観世音菩薩・阿弥陀仏本尊
脇本尊	弘法地蔵尊
建立年月	寛永二年（一六二五年）虎の年
現在の状況	明治二年（一八六九年）藤野木と長尾野道路工事のために現在地に移転建立されている。昭和六〇年頃までは、地区総出で八月二十一日に供養祭りが行われていたが、現在は盆に掃除・管理のみとなっている。

#### その他

#### 逸話

逸話としては別に無いが、藤野木村の庄屋は代々長尾家が継いでいた。

藤野木村は、成政・藤野木・重尾・草河内の四地区からなっている、

この堂の主尊は鎌倉時代にこの地に移り住んだ長尾氏の先祖の持仏であったと言われているから、この地域の堂祠による信仰が起こったのは鎌倉期と思われる。

藤野木村騒動のあった頃、今から七〇〇年以上も前であったらうと推測される。



呼称	観音堂
場所	中津市山国町藤野木
本尊	木造地藏菩薩半跏像
脇本尊	
建立年月	室町時代から桃山期にかけてのものと推測される
現在の状況	昭和五十四年二月、山国町指定文化財として指定されている。 四月二十一日・八月二十一日の年二回地区民総出で供養祭りが行われている。

その他

## 逸話

堂の付近の川で子供たちが水遊びをしていると、見知らぬ坊さんが来て一緒に遊んだり世話をやっていた。

ある日、男の子が痙攣を起こし溺れかけた。その時お坊さんが来て子どもを助けあげた、子どもの親たちがお坊さんにお礼を・・・と思い探し回ったがどこにも見当たらなかった。

親子がやむなく帰る道すがらふと地藏堂を見ると真中の地藏像から水がしたたり落ちていた、親子はこの地藏様に深く頭を下げお礼を申し上げた。

地域の人々は、子ども好きなのこの地藏様を子どもの守り神として崇め奉つり、今でも祭りの日は学校帰りの子どもに赤飯を接待している。



呼称	地藏堂
場所	中津市山国町藤野木草野河内
本尊	地藏菩薩半跏像 木像
脇本尊	弘法大師
建立年月	元建立は定かでないが、昭和五十八年に再建した。
現在の状況	年二回、一月二十一日、八月二十一日、地区民全員により供養祭りを行っている。

その他

## 逸話

定かでないが、昔多くの動物がいて農作物を食い荒らし、農民が大変苦勞をし、明日の食べ物にも不自由をする始末だった。

そこで、部落の長 草内氏が発起人になり、地藏菩薩を安置して部落の安全・安泰を祈願した。それ以降動物は里に現れなくなり、農作物を荒らさなくなった。

特にキツネは今でも裏山の麓の洞穴で子どもを育てているそうだ。

供養祭りには、その年の農作物が沢山供えられている。



18

呼称	観音堂
場所	中津市山国町長尾野
本尊	十一面観音
脇本尊	
建立年月	天保十年亥年（一、八三九年） 中島源兵衛の肝いりで建立した。
現在の状況	八月七日、十七日に通夜を行い 十七日に盆踊りが行われている。
その他	

## 逸話

建立の頃、長尾野地区では陽平ひへらの裏山がたびたびの崩壊のため、家は壊され、人馬は死んだり傷ついたり  
だった。

そこで、観音様の力にすがったらどうかということになり、その山の正面の右手に山の崩れを抑え、左手  
にお神酒を持つ十一面観音を収めました、その後災害は起こらなくなった。

その噂が広がり、ある時観音様を盗み、背負った賊が一尺八寸みやおやま山の峠を越そうとしたが、急に重くなった  
ので、観音様の怒りと感じて元の位置に返し、中島庄屋に詫びた・・・と伝えられている。



19

呼称	彦神社
場所	中津市山国町守実
本尊	清正公様
脇本尊	
建立年月	明治二十年ごろ
現在の状況	熊谷病院宅が年中守っている。 昔は田地一反ありその作り主が お祭りをしていた。
その他	

## 逸話

明治三十二年ごろ、ハンセンシ病患者の為、熊谷静雄医師が熊本に赴き、加藤清正公の御心を戴き建造され多くのハンセンシ病患者がお参りに訪れていた。

平成十四年に熊谷方巳医師が再建し、毎年七月十四日に夜通しのお祭りを行っている。



20

呼称	観音堂
場所	中津市山国町守実中組
本尊	観音菩薩
脇本尊	
建立年月	明治初期、平成十九年再建
現在の状況	守実には昔から居住している。 十四戸で守っている。
その他	

## 逸話

逸話というのは特にない、毎年五月八日、お盆 十一月十七日に、祭り元の方が昔ながらの酒肴で一杯飲みながら祭りを行っている。



呼称	堂様
場所	中津市山国町守実志川
本尊	道祖神
脇本尊	観音菩薩
建立年月	大正十四年・平成十七年再建
現在の状況	毎年七月二十三日 地藏盆お通夜 十一月二十三日甘酒祭りを八軒 で祀っている

その他

## 逸話

観音菩薩、あらゆる苦しみから慈悲を持って救ってくれる仏様として知られる。

観世音菩薩または観自在菩薩ともいわれ、その力を信じれば様々に姿を変えて人々に救いの手を差し延べる菩薩様として大切に祀られている。

大正十四年に志川地区に建てられ、昔の志川地区の八軒で年二回お祭りを行っている。



呼称	弘法堂
場所	中津市山国町守実狩宿
本尊	弘法大師
脇本尊	火伏観世音
建立年月	不明
現在の状況	
その他	

## 逸話

この狩宿弘法堂は建立されたのは不明だが、現在の熊谷家の先代が四国八十八ヶ所参拝を終えてからこの堂を見守ったとのこと。

当時は家もまばらであり、堂様を大切にしなければ・・・の思いから、現在に至っている。

昭和六三年に道路改修にあたり現在のところに地区の支援により移転建立、毎年四月二十一日に昔からの地区六軒により順番によりお祭りしている。

## 脇本尊

この堂の中に観世音菩薩を祀っているが、当時より火伏観音として地区を火災から守ってくれている。また病気を治すともいわれ近隣から参りに来る人もいた。

お祭りは、現在の狩宿地区全員で七月に米・野菜など持ち寄って盛大に行っている。



23

呼称 観音堂

場所 中津市山国町平小野田ノ中

御本尊 十一面観音菩薩

脇本尊 弘法大師・大日如来・子育て観音  
淡島様・十二神将木像

建立年月 最初は、建永(一二〇〇年ごろ)  
建てられたものと見られている。  
昭和二年改築

現在の状況 毎年四月十五日・八月十日・八月  
十七日に供養祭りが行われている。

その他 堂の周囲には多数の石仏等があつた  
が、四十年位前に玖珠の方へ持って  
行った。

## 逸話

観音堂の主尊十一面観音は、元任二年(一二二五年)に、あまりにも靈験あらたかなゆえに盗難に遭い紛失した。

方々探したが見つからず、地域の人は諦めていたら、いつの間にか観音像が帰り、いつもの所に安置されていたそうだ。



24

呼 称	明林堂
場 所	中津市山国町平小野小竹林
本 尊	弘法大師
脇本尊	猫像
建立年月	昭和二十五年（平成十年再建）
現在の状況	三月二十一日・八月二十一日に 供養祭りが行われている。
その他	

## 逸話

昔、この堂様のところに三好姓の若夫婦が住んでいた。

この夫婦に子どもが居て毎日昼寝をしていた、其の日も、昼寝をしている枕元に飼い猫が、異様なうめき声を挙げて、今にも子どもに飛び掛らんとしていた。

その様相に両親が気づき、「これはなんとした事か」と近くにあつた棒を取り打ち殺そうと叩いた。

猫は、子どもに襲いかかるうとする大きな蛇を噛み殺し撃退しようとしていたのだった。

猫はその後すぐに死んでしまった。

子どもを守ってくれた愛猫に、思い違いをして殺してしまった事のお詫びと、恩返しに猫の石像を安置して祀った。

地区の人は、弘法様のお祭りを「猫祭り」と呼んでいる。

猫の像の台座には「天神名主法登大神」と刻まれている。



25

逸話

百五十年頃から安産の神様として祭っている。

呼称	観音堂
場所	中津市山国町吉野辻
本尊	観音様
脇本尊	
建立年月	
現在の状況	四月八日 花まつり 八月十日 盆供養 八月十七日 送り火 十一月十八日 観音まつり 十一月二十二日 大師講まつり が行われている。
その他	



26

呼称	お堂様
場所	中津市山国町小屋川谷組
本尊	千手観音
脇本尊	
建立年月	再建不明
現在の状況	毎年八月十日・八月十七日・ 十月十日又は旧暦十二月十日 二十一戸でお祭りをしている。 「祭り元は四戸持ち回り」
その他	

## 逸話

昔から人々の苦しみを救う観音様として祀ってきた。

現在は、安産・健康・家内安全の神様としてお祈りしている。

地区内が安全・安心で暮らせるのも千手観音のお陰と地区民は感謝している。



27

呼 称	お堂様
場 所	中津市山国町小屋川上組
本 尊	
脇本尊	
建立年月	平成四年四月吉日再建
現在の状況	毎年十二月十日に、供養祭りが行われている。
その他	

## 逸話

女の神様として、昔からお産・病気全快をお祈りしていました。その後、交通安全・合格祈願等ご利益のお礼として祭りをしています。

平成三年の台風でお堂が崩壊し仏像だけは無事で、平成四年に新築再建し近所の人はお参りしています。古くからの書き物類は濡れて駄目になった。

毎年十二月十日に小屋川上組の人たちでお祭りをしている、道行く人もお参りしている。



呼称	不動尊
場所	中津市山国町小屋川所小野
本尊	磨崖像 不動三尊石仏
脇本尊	各種菩薩石像三十二体も納められている。
建立年月	養和(一、一八一年)後期より霊場され、享保期(一、七一六年)庶民に開放された。
現在の状況	毎年四月八日、十一月二十八日には地区の人々により「不動様籠り」が行われ、参拝者にお神酒・おにぎり等で接待している。 十一月二十八日には、例大祭が行われている。

#### その他

#### 逸話

「身代わり不動」とも呼ばれ、享保時代に描かれた古地図には「不動」と示されているが、この呼び名はいつ付けられたか定かではありません。

息子を出征された母親が、我が子の無事帰還を願って願を掛けました。戦場の息子はあわやの危機を逃れ母の元へ還ってくる事ができ、二人でお礼参りに参拝すると菩薩の胸より鮮血が流れていました。

この仏が息子の身代わりに立ったものと思われ、このことが評判になり、遠方からも参拝に来る人が増えました。なぜ、「身代わり菩薩」と呼ばず「身代わり不動」と呼ぶかは定かではありません。

所小野の洞窟は、奥行き四メートル程しかないが、深山の神秘的な所にあります、山伏は洞窟を仏の体内に見立て護摩を焚き呪文を唱え自分が仏となる修行を続ける霊場としていました。



呼 称	観音堂
場 所	中津市山国町草本田良川
本 尊	観音様
脇本尊	薬師如来
建立年月	再建 天正六年（一、五七八）六月 中奉行・矢野八左衛門が施主
現在の状況	
その他	

逸話

逸話ではないが、草本地区は山国の中でも比較的早くから開けた土地柄であったと思われる。

堂内に掛けられた板額には次のような事柄が記載されている。「再建 従来 耶馬溪 清水禪師」

- 一、観音堂 前任 清水良永禪師 後住 不知天正六卯年 但し先施 長祿元丑春造営 施主 鉦山奉行 矢野八左衛門尉
- 一、全二再建 旧元祿七種再建 田良川 白銀 朱山 黒岩 鉦山砌
- 一、全三再建 文化十年春造営 熊谷林左衛門外二十八名」・・・この板額の記載は、近代になってなされたものであり、書くときに資料解釈の混乱があったのではないだろうか。しかし、長祿年間（一四五七～一四七〇）に堂宇が創建されたのは事実でしょう。

この観音堂境内には、天正六年銘のこの庵の前任良永禪師の供養塔があります。

南北朝から室町にかけて、ある程度の文化的営みが存在していた土地柄だと思われれます。



30

呼称	疣取り地蔵
場所	中津市山国町草本大曲
本尊	地蔵菩薩
脇本尊	阿弥陀像
建立年月	享保一〇年（一七二五年）より 長福寺があり、その跡地に祀られて いたものと思われる。 昭和五十七年、道路改修時に現在地 に再建された。
現在の状況	八月二十四日通夜・盆踊りが行われ ている。
その他	

## 逸話

昔、「小曲り」に信心深い一人暮らしのお婆さんが住んでいた。

ある秋の夕暮れ、通りすがりの小法師が一夜の宿を請うた。手の甲に沢山の疣のあるお婆さんは快く優しく招き入れ、心のこもった接待をした。

翌朝の事、木戸口に石で刻んだ手水鉢が置かれ、傍らに「心の優しいお婆さんに疣取りの水を進ぜよう。この鉢に水を張りて用いよ」と書かれた手紙が置かれてあり、昨夜の小法師の姿は無く英彦山に旅立ったと思われる。

お婆さんは言われた通りにその水に疣をつけたところ、いつとはなく疣は跡形も無く消えていた。

近所の人々は、不思議な手水鉢に疣取りのご利益をくれた小法師こそ「衆生を救う地蔵菩薩に違いない」と思い、この地に一字を建て菩薩像を安置し、報恩感謝の暮らしをしたと伝えられている。

この出来事は、口伝えに広く伝わり、遠くからも水を戴きにお参りの人が絶えなかったと言われている。



31

呼称	お堂様
場所	中津市山国町槻木高内
本尊	観音様
脇本尊	
建立年月	
現在の状況	
その他	

## 逸話

時期は定かでないが、この地域に大火が起こり家や総ての建物を焼き尽くす勢いであったが、そのとき観音菩薩が現れて村人がお祈りをしたら鎮火して多くの家屋が難を逃れた。

住民たちはたいそう喜び感謝しこの地に観音菩薩を「火除け」の神として堂を建立した。

その後数百年の間火災は発生していない。

現在はお盆には観音様盆踊りを実施している。



32

呼称	観音堂
場所	中津市山国町槻木小原井
本尊	十一面観音
脇本尊	
建立年月	
現在の状況	毎年八月十七日、地区民にて 供養通夜が行われている。
その他	

## 逸話

地区の火伏せの守り神として今日まで崇拜され供養を継承されているが、逸話については定かでない。



33

呼 称	観音堂
場 所	中津市山国町槻木中畑
本 尊	聖観世音菩薩
脇本尊	地藏菩薩立像
建立年月	
現在の状況	
その他	

## 逸話

当観音堂は、現在の位置に安置される前は下の本川山国川の近くにあつたが、昭和三年の大洪水の時に床下まで水が上がり堂の大半が流失し危なくなり現在地に移動した。

逸話としては、水害・火災の守り仏として伝えられているのみである。



34

呼 称 観音堂  
場 所 中津市山国町槻木桑原  
本 尊 観世音菩薩  
脇本尊 地蔵菩薩立像  
建立年月 不明  
現在の状況 毎年八月十日に地域の人々で  
掃除をし、八月十六日供養参り  
が行われている。

その他

## 逸話

昔、桑原地区には、秋の取入れが終わり冬になると、毎年のように火事が起こり、家や家畜が焼け死んでいた。

当時は水の便も悪く人力だけの消火でした。地区民相談の結果「神頼み」ということになり、火伏せ地蔵・火伏せ観音として、地蔵菩薩立像と観世音菩薩を併せて祀った。

それ以降桑原地区には、長らく火災が起きていないのはこの地蔵堂のお陰といわれている。



呼称	弘法地藏堂
場所	中津市山国町槻木泉
本尊	弘法大師
脇本尊	猫地藏
建立年月	明治初期（一、八六八頃）
現在の状況	
その他	

## 逸話

文久（一八六八ごろ）の頃、徳川幕府末期泉部落に一組の夫婦が暮らしていた。ある時、先祖の供養のためお坊さんにお経を上げてもらっていた。

物資のない中、嫁さんが坊さんにご馳走を作っていたら猫が食べてしまった。怒った嫁さんは斧を持って追いまわしたが猫は坊さんの懐へ逃げ込んだ。坊さんは「私に免じて猫を許してやってください」と言っ帰った。しかし、嫁さんは怒りが収まらず、猫を捕らえ斧で首をはねてしまった。

その首は向かいの山まで飛んで行ったそうです。

その後、明治の初期に泉部落に山野・人家に原因不明の火災が頻繁に起こり、ある時部落の大半が焼ける大火災が起きた。

村人は、これはただごとではないと思い、祈禱師を呼んで祈禱をお願いした所「死んだ猫の祟りで猫塚を建てて小石に経文を書き込み供養をするように」と言われた。

その後は火災も起こらなくなったそうです。その経文の書かれた小石が今でも猫塚と共に安置されている。毎年盆の十六日に弘法様と合祀されている地藏堂にて供養通夜が行われています。

編集委員

委員長	森山 アヤ子	中摩
副委員長	中村 良子	吉野
事務局長	佐々木 政幸	中摩
運営委員	中島 一二三	宇曾
運営委員	樫本 マサ子	守実

連絡員	溝口 勇	中摩
連絡員	山崎 繁	中摩
連絡員	清水 節子	中摩
連絡員	財津 静香	宇曾
連絡員	池田 喉喜	守実
連絡員	矢野 とし子	守実
連絡員	山口 五月	守実
連絡員	森 節子	守実
連絡員	増永 義男	平小野
連絡員	高内 次人	槻木

編集後記

平成十六年に伝統文化教室「当時・伝承サークル」によって「やまくにむかしから伝わるお話し（その二）」を発刊した後、次回は何を研究しようかと検討した結果、山国各地区に相当数の堂様が存在する。それにはそれぞれ建立した逸話がある。その文化を大切にし後世に残そう。今やっておかないと逸話を知っている人が居なくなり逸話が消えてしまう。と言うことで冊子作りが始まった。担当者を地区ごとに分担し聞き取り調査を開始したが、当初思っていた以上に逸話を知っている人が少なく困難を窮めた。

険しい山中や崖の上等に建立されている宇も多く「昔の人が良くこんな所へ立てたものだ」と当時のその苦勞を思いながら建立年月等を調査した。数百年前の芳名板に記されている筆字は殆んど読み取ることが出来ず、像の背中や底を調査し七〇宇近くある堂のうち三十七宇を調査し、製本にこぎつけることが出来た。

この間の会員皆さん方の努力に感謝する次第です。また、現山国公民館長・小原井重次氏には最終的な発刊事務にご協力頂き感謝を申し上げます。

文中の年代、記述等不適正な部分も多かろうと思いますが、「逸話」と言うことで寛容な心でお読みいただければ幸せに思います。